

2016年6月14日

株式会社 富士経済
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
12-5 小伝馬町YSビル
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 TEL.03-3664-5697
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

ドリンク剤、疲労対策、美容関連、肩こり・関節痛関連、その他外用薬など 一般用医薬品の国内市場を調査

2015年市場と2016年市場見込（前年比）

しみ改善薬 15年、リニューアル品続伸、販促強化、インバウンドで136億円（25.9%増）
16年、参入企業による注力度の維持及び強化で150億円（10.3%増）
強肝解毒栄養剤 15年、リニューアルと新製品投入で35億円（6.1%増）
16年、好調が続き39億円（11.4%増）
液体絆創膏 15年、一部製品大幅なインバウンド取り込み成功で21億円（50.0%増）
16年、インバウンドが落ち着き15億円（28.6%減）

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811）は、一般用医薬品（市販薬・OTC）17分野75薬効の市場を調査している。まずはドリンク剤、疲労対策、女性関連、フットケア、美容関連、肩こり・関節痛関連、小児用薬、その他外用薬、環境衛生用薬、9分野36薬効の調査結果を報告書「**一般用医薬品データブック 2016 No.1**」にまとめた。

この報告書では、「注目のインバウンド動向」「SNS/ネットプロモーションの活用状況」「ユーザー構成/利用シーン特性の分析」を明らかにし、より実践的な市場分析を行った。

2015年の一般用医薬品は、前年の消費税増税、要指導医薬品の登場、第1類製品のインターネット販売の解禁などの市場環境の変化が落ち着き、品目によっては例年の市場の動きを取り戻したが、苦戦した品目もみられた。

また、訪日外国人向けのインバウンド需要獲得の動きが加速した。2014年より一般用医薬品も免税対象となったことで、中国人観光客を中心とした「爆買い」効果で参入企業各社の実績は伸長した。

<注目市場>

しみ改善薬（美容関連）

| 2015年 | 前年比 | 2016年見込 | 前年比 |
|-------|--------|---------|--------|
| 136億円 | 125.9% | 150億円 | 110.3% |

安定したユーザー確保には至らないまま2009年の改正薬事法により第1類となり、市場は縮小推移をたどっていたが、2014年に第一三共ヘルスケアが「トランシーノ」のリニューアルとともに、シリーズに新ラインアップを投入したことで7年ぶりに拡大となった。

2015年は引き続き「トランシーノ」が好調だったことに加え、エスエス製薬が「ハイチオール」シリーズの新たなラインアップとして「ハイチオールCホワイティア」を発売し、販促を強化したことで大幅に実績を伸ばし、市場拡大をけん引した。また、インバウンド需要も市場を押し上げた。インバウンド売上は2015年に市場の約15%となった。2016年の市場は参入企業による注力度は維持及び強化されるとみられ、二桁成長が見込まれる。また、新規参入企業の出現も期待される。

強肝解毒栄養剤（疲労対策）

| 2015年 | 前年比 | 2016年見込 | 前年比 |
|-------|--------|---------|--------|
| 35億円 | 106.1% | 39億円 | 111.4% |

強肝解毒栄養剤は、薬効分類上、滋養強壮剤に分類され、肝臓水解物、L シス테인などを配合し、肝臓への作用やアルコールの分解・解毒を効果効能としている。中高年層の利用が多いが、若年層の掘り起しも進められており、ユーザーも一定規模は存在する。二日酔い対策では胃腸内服薬やハウス食品「ウコンの力」に代表される食品ドリンクと競合する。市場は2000年代前半までは低調な推移が続いていたが、2007年に新製品投入によ

る市場の底上げが図られ、2009年はゼリア新薬工業が「ヘパリーゼ」ブランドのプロモーション強化を図っており、以降市場は拡大推移している。

2015年はゼリア新薬工業が「新ヘパリーゼプラス」をリニューアルし、佐藤製薬が「レバウルソ」の新ラインアップ「レバウルソゴールド」を追加するなど、活発な動きがみられたことで、市場は拡大した。ゼリア新薬工業の「ヘパリーゼプラスII」が続伸し、また、「レバウルソゴールド」も好調であることから、当面市場は安定推移が続くと予想される。今後はメインユーザーの高年齢化が進むことから、市場をさらに拡大させていくためには、新たなユーザーを開拓していく必要があり、継続的な製品改良や販促活動の見直しが必要となる。

ビタミンB₁B₆B₁₂主薬製剤（肩こり・関節痛関連）

| 2015年 | 前年比 | 2016年見込 | 前年比 |
|-------|--------|---------|--------|
| 201億円 | 114.9% | 218億円 | 108.5% |

ビタミンB₁B₆B₁₂を有効成分とし、神経痛や筋肉痛・関節痛等の緩和を効果効能とする製品を対象としている。市場は一時期200億円を越える規模であった。1990年代以降はサプリメント類に需要を奪われ2000年代前半からおおむね縮小推移であったが、2013年に武田薬品工業が「アリナミンEXゴールド」を投入すると共に、目、肩、腰のそれぞれの症状に対する効果を訴求し、臨床データの情報提供を進め、実績を伸ばしたことで、市場は前年比二桁増となった。2014年も続伸している。

2015年は前年から引き続き、武田薬品工業の「アリナミンEX」シリーズや第一三共ヘルスケアの「トラブルBBチャージ」、佐藤製薬の「コンケルB12アクティブ」などが好調だったことから市場は拡大した。2014年、2015年の伸長はインバウンドや国内の需要の高まりによるものであり、特にインバウンド売上は大きく拡大し、2015年に市場の約10%となった。肩こり、眼精疲労、神経痛といった症状は中高年層がターゲットとなり、継続的に需要喚起を行うことで、今後市場は拡大していくとみられる。

外用消炎鎮痛剤（肩こり・関節痛関連）

| 2015年 | 前年比 | 2016年見込 | 前年比 |
|-------|--------|---------|--------|
| 455億円 | 105.8% | 465億円 | 102.2% |

外用消炎鎮痛剤は打撲・捻挫、筋肉痛、肩こり、腰痛、関節痛などを効果効能とした外用剤を対象とする。インドメタシンやフェルピナク製剤を中心に積極的な製品投入と販促活動が行われていたが、需要開拓が一巡すると伸びは鈍化した。2009年に第3世代と呼ばれる「ボルタレン」（当時はノバルティスファーマが販売）をはじめとするジクロフェナクナトリウム製剤が投入され、新規スイッチOTCによる市場の活性化が期待されたが、改正薬事法により第1類となり、販売機会が減少したことで、大きな拡大には至らなかった。2010年以降、インドメタシンやフェルピナク製剤で安価なPBの登場もあって、市場は縮小推移をたどったが、ジクロフェナクナトリウム製剤が2013年にリスク区分変更で第1類から第2類に引き下げられたため、参入各社が新製品投入と販促を強化したことで、市場の縮小に歯止めがかかった。

2015年は久光製薬が積極的な販促活動を展開したことでインバウンド需要を取り込んだことで市場は拡大した。2016年の市場はインバウンド需要のほかにもジクロフェナクナトリウム製剤による活性化もあり、拡大を維持するとみられる。今後は多彩な成分が存在するだけにブランド戦略の構築は複雑なものとなり、より緻密なマーケティング戦略が必要となる。

液体絆創膏（その他外用薬）

| 2015年 | 前年比 | 2016年見込 | 前年比 |
|-------|--------|---------|-------|
| 21億円 | 150.0% | 15億円 | 71.4% |

液体絆創膏は、空気に触れると固まる液体で、傷口に塗ることで、かさぶたを待つことなく傷口を保護する。一般用医薬品と医薬部外品がある。

2015年の市場は一部製品が大幅なインバウンド需要の取り込みに成功し大きく拡大した。液体絆創膏は、冬のあかぎれに対応した製品として主婦層を中心に安定した支持を受けており、実績は暖冬で落ち、厳冬で伸びる傾向がある。近年は暖冬が続いているため市場は厳しい状況である。今後も、市場は冬季の気象状況に左右される。一方、インバウンド需要に関しては、いわゆる“爆買い”の対象となっており、一部企業に大幅な実績拡大をもたらした。市場全体を押し上げたが、2016年は“爆買い”も落ち着くとみられ、縮小が見込まれる。

【調査対象】

| | |
|-----------------------------|--|
| ドリンク剤 | |
| 1. ドリンク剤 | 2. ミニドリンク剤 |
| 疲労対策 | |
| 3. 滋養強壮剤（強精剤含） | 6. ビタミンB ₁ 主薬製剤 |
| 4. 薬用酒 | 7. 総合ビタミン剤（エネルギー代謝改善薬含） |
| 5. 強肝解毒栄養剤 | |
| 女性関連 | |
| 8. カルシウム剤 | 11. 女性保健薬 |
| 9. 造血剤 | 12. 月経前症候群治療薬 |
| 10. 膣カンジダ治療薬 | 13. 妊娠診断薬・排卵予知薬 |
| フットケア | |
| 14. 水虫薬 | 16. 足のむくみ改善薬 |
| 15. イボ・ウオノメ薬 | |
| 美容関連 | |
| 17. ビタミンB ₂ 主薬製剤 | 20. ビタミンE主薬製剤（ビタミンEC主薬製剤含） |
| 18. ニキビ用薬 | 21. あかぎれ用薬 |
| 19. しみ改善薬（ビタミンC主薬製剤含） | 22. 乾燥皮膚用薬 |
| 肩こり・関節痛関連 | |
| 23. 外用消炎鎮痛剤 | 25. ビタミンB ₁ B ₆ B ₁₂ 主薬製剤 |
| 24. 関節痛治療薬 | 26. 肩こりドリンク剤 |
| 小児用薬 | |
| 27. 鎮暈剤 | 28. 小児五疳薬 |
| その他外用薬 | |
| 29. 鎮痒剤 | 32. 口唇ヘルペス治療薬 |
| 30. 救急絆創膏 | 33. 皮膚治療薬 |
| 31. 外用殺菌消毒剤 | 34. 育毛剤 |
| 環境衛生用薬 | |
| 35. 殺虫剤 | 36. 消毒剤 |

【調査方法】

富士経済専門調査員による参入企業及び関連企業・団体などへのヒアリング及び関連文献調査、社内データベースを併用

【調査期間】

2016年3月～5月

以上

| | |
|--|--|
| 資料タイトル： | 「一般用医薬品データブック 2016 No.1」 |
| 体 裁： | A4判 352頁 |
| 価 格： | 書籍版 150,000円+税 PDF/データ版 160,000円+税 書籍版・PDF/データ版セット 180,000円+税 書籍版・ネットワークパッケージ版セット 300,000円+税 |
| 発 行 所： | 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL：03-3664-5811（代） FAX：03-3661-0165 URL： https://www.fuji-keizai.co.jp/ e-mail： info@fuji-keizai.co.jp |
| 調 査 ・ 編 集： | 富士経済 東京マーケティング本部 第二部 TEL：03-3664-5821（代） FAX：03-3661-9514 |
| この情報はホームページでもご覧いただけます。URL： http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ | |